

寄附者ご芳名

平成30年4月～平成30年12月現在(敬称略・順不同)

アイバンクの活動を支援してくださいました皆様に深く御礼申し上げます。

賛助会員(個人)

奥村 忠	(2,000円)
木下治太夫	(2,000円)
小林 達治	(2,000円)
齋藤 友護	(2,000円)
鶴岡 智	(2,000円)

賛助会員(団体)

医療法人 齋藤眼科	(10,000円)
林石油店	(10,000円)

募金寄附

平野純薬 株式会社	(148,000円)
-----------	------------

一般寄附(個人)

時岡 宗廣	(10,000円)
河野伸二郎	(10,000円)
鶴岡 智	(10,000円)
奥村 忠	(8,000円)

一般寄附(団体)

ライオンズクラブ国際協会334-D地区	(850,400円)
福井県眼科医会	(100,000円)
匿名	(500,000円)

協賛

- 株式会社アイビックス
- 株式会社医療サポート
- 株式会社エバホームケアサービス
- エフケーユーテクニカル株式会社
- 株式会社黒川クリーニング
- 参天製薬株式会社
- セーレン株式会社
- 税理士法人FORM
- 玉木 誠
- 高桑印刷株式会社
- ナカブネ株式会社
- 株式会社福井銀行
- 株式会社北陸銀行
- 北興産業株式会社
- 株式会社マルキヤ宣広社
- 伊藤電機設備株式会社
- 栄月株式会社
- 株式会社キャンピオ辻万
- 株式会社熊谷組福井営業所
- 三和メディカル株式会社
- 株式会社サンライフ小野谷
- セントラルメディカル株式会社
- 日本電気株式会社
- 公益社団法人日本眼鏡技術者協会福井県支部
- だるま屋商事株式会社
- 平野純薬株式会社
- 福井環境事業株式会社
- 福井県済生会病院
- 北陸設備工業株式会社
- 株式会社ユアーズホテルフクイ



《発行元》 公益財団法人 福井県アイバンク

〒918-8235 福井県福井市和田中町舟橋7-1(福井県済生会病院内)
TEL.0776-23-1315 FAX.0776-23-1316
URL: <http://fukui-eyebank.com/>

News Letter 2018

目の愛護デー 『目の無料検診』 開催報告



日時 平成30年10月20日(土)
13:30～16:30(受付16:00まで)

会場 ラブリーパートナー エルパ
2階 エルパホール

[福井市大和田町2-1212 TEL.0776-57-2525]

- 協力スタッフ
- 福井大学医学部附属病院 様
医師1名、視能訓練士1名
 - 福井赤十字病院 様
医師1名、視能訓練士1名
 - 福井県済生会病院 様
医師1名、視能訓練士1名
 - (公社)日本眼鏡技術者協会福井県支部 様
 - ライオンズクラブ国際協会334-D地区
福井ライオンズクラブ 様



当アイバンクでは、毎年10月10日「目の愛護デー」記念事業として『目の無料検診』を開催し、広く県民の皆様方に「目の病気に対する理解」と「目の健康への意識」を高めて頂く事を目的とした活動を行っております。

今年は、お子様からご年配の方まで81名の方々に、簡単な問診後に視力検査・眼圧検査、また医師の検診を受けていただき、目に関する日頃の疑問を解決して頂くと同時に、眼の大切さを実感頂ける機会となりました。「普段気になっていたことが気軽に聞けてよかった」「アイバンクについてはじめて知った、いい機会になった」などの感想の声も聞かれました。

また、(公社)日本眼鏡技術者協会 福井県支部の皆様より、メガネの無料洗浄や微調整のサービスをご提供いただき、多くの方がご利用されました。

福井県アイバンク

小せう子から
お年寄りまで
どんな方でも
おまかるに。

目の無料検診開催

お子様からお年寄りの方まで、お気軽に検診していただけます。

日時 2018.10/20 (SAT) 13:30-16:30

会場 ラブリーパートナー・エルパ 2階 エルパホール
福井県福井市大和田町32-24 TEL.0776-57-2525

主催 福井県アイバンク、福井県眼科医会 共催 ライオンズクラブ国際協会334-D地区 5-GR

※無料検診「目」に関する質問に答えてもらえますが、目の病気の原因や治療法については、医師の診察が必要です。
※アイバンクは、目の健康を促進するための活動です。

ドナーの皆様へ感謝と哀悼を込めて 第7回「ドナーファミリーの集い」

日時 平成30年11月23日(金・祝)
会場 AOSSA 8階 県民ホール

本年度で第7回目となる「ドナーファミリーの集い」が、11月23日(勤労感謝の日)、アオッサ8階の福井県民ホールで開催されました。当日はドナーのご家族やレシピエント(移植を受けた方)とご家族、医療関係者、ライオンズクラブを始めとした支援者の皆様を含め約70名が集いました。

福井県眼科医会会長の小林達治氏が開会挨拶。続いて、これまで献眼をされた多くのドナーの皆様に感謝とご冥福をお祈りして、全員で黙祷を捧げました。

来賓としてご挨拶をいただいた県健康福祉部企画幹の吉田啓介氏は「献眼というドナーの方々の勇気ある思いを受け止めて語り合う、このような集いの機会はとても意義がある。福井のアイバンクは人口比の献眼率では全国でトップクラスにあり、この成果を踏まえて、県としても引き続き移植医療への県民の更なる意識向上をめざして支援をしていきたい」と祝辞を述べました。

ライオンズクラブ334-D地区を代表して、ご挨拶をいただいた藤井章男氏(6R1Z・ゾーンチェアパーソン)は「日本で始めて角膜移植が行われたのは60年前。当時、移植を受けた岩手県の14歳の少女の手紙を紹介します。『始めて母の顔が見えて涙が止まらなかった。町並みや秋の紅葉も何もかもが光に輝き、すべてが新しい感動でした』。先般、献眼をされた方の

ご家族にライオンズクラブとして感謝状をお届けしたが、献眼という行いの方がまず存在して、そこに医療現場の努力や多くの方に支えられて始めて移植も行われるということを再認識した。今後も力を尽くしたい」と述べました。

娘にも父の思いを伝えられた

厚生労働大臣からの感謝状、並びに福井県アイバンクからの感謝状の贈呈を行いました。厚生労働大臣表彰はドナーファミリーを代表して、為国順治氏に県の吉田企画幹が贈呈。アイバンクからの感謝状は、副理事長の吉田敏貢氏から記念品を添えて、同じく發坂卓雄氏に贈呈されました。

親子で感謝状を受けた為国氏は、「父親が献眼した時にはまだこのような集いは無かったが、今回、娘と一緒に参加して、父の思いを娘にも伝える機会となってよかった」と挨拶。發坂卓雄氏は「父親の一周忌の法事が間もなくある。仏前で今回のことを報告します。きっと父も喜んでもらえると思う」と述べました。

同時に会場内のドナーファミリーの皆様にも、感謝状と記念品をそれぞれ贈呈しました。



記念品

感謝の気持ち忘れず、大切に生きなければ恥ずかしい

この間、「ドナーファミリーの集い」の企画にあたって、ドナーファミリーの皆様や、レシピエントの皆様からアイバンクに寄せられたお手紙を朗読しました。朗読は地域で子供たちに読み聞かせなどのボランティア活動をしている清水美代子氏と「ふくい劇の会」代表の高岡龍一氏が担当。在りし日のドナーの方々の映像を見ていた



高岡龍一氏(左)・清水美代子氏(右)

ドナーVoice②

義理の母として、ちょうど10年間、お世話になりました。この家に来たときが最初の癌の手術の直後でした。思うようにならない体で、きっと嫁に伝えたかったことはたくさんあったと思います。集落の付き合いのこと、お寺関係のこと、田畑のこと、もっともっとたくさん聞いておけばよかったと思うことはたくさんあります。何よりも周囲の人に対して感謝の気持ちを忘れずに、常に「ありがとう」と口にしていた母の姿を思い出します。(80代女性のご子様のお嫁様より)

参加者

- ドナーファミリー(角膜提供家族)
- 移植者
- 眼科医師・県内臓器移植コーディネーター・医療従事者

- 協賛企業代表の皆様
- ライオンズクラブ国際協会334-D地区の皆様
- 福井県地域医療担当者様

参加者総数：70名

きながら、次々と紹介されるドナーのご家族の思いやレシピエントの感謝の言葉に、会場には温かい感動の輪が広がっていきました。また、ドナーのご家族から毎年届けられる「風船かざら」の種と添えられたお手紙も紹介されました。



風船かざら

その後は9つのテーブルごとに、ドナーファミリーやレシピエントとご家族、医療関係者やライオンズクラブ、協賛団体の方々と交えて約1時間にわたり懇談と交流を行いました。

魂の「はぐるま太鼓」が躍動

当日のプログラムでは、「和太鼓 はぐるま」による若々しく勇壮な太鼓も披露されました。オープニングは「翔・かける」。4人の若者達の力感あふれる太鼓の響きが会場いっぱいに広がっていきました。

挨拶に立った「はぐるまの家」代表の坂岡嘉代子氏は「これでお招きをいただいたのは3回目です。はぐるま太鼓は、いろんな境遇を生きてきた人達に、もう一度人生のやり直しを太鼓の演奏を通じて励まし、励まされるものをめざしている。力一杯の演奏をお届けします」と述べました。その後は、「昂」「飛翔」とスピード感にあふれた力強い太鼓が続きました。演奏を聞いた方には「次第に胸が熱くなってきた。優しさと強さがあった。真摯な演奏が心に届き、感動した」と感想を述べられる方もありました。勿論、大きな拍手が沸きあがりました。



小さな成功に甘えず、さらに努力を約束

閉会にあたり挨拶に立ったアイバンクの吉田敏貢副理事長は「長時間にわたり、ご参加をいただきまして大変お疲れ様でした。第7回のドナーファミリーの集いが多いの皆様のご参加をいた



(公財)福井県アイバンク 副理事長 吉田 敏貢氏

くなく無事終えることができました。厚く御礼を申し上げます。集いの進行には不慣れでご迷惑をおかけした事もあったかと思いますが、ご容赦をいただきたいと思います。「今日までの30年あまり、皆様のご尽力、ご支援をいただくなかで、全国のアイバンクのなかで献眼率はトップクラスとなり、県内で移植を待つ患者の方にはほぼ応えられるところまで来ました。しかし、全国的な献眼の状況は近年少し減少傾向にあり、海外からの輸入眼に依存する割合が5割を超えています。私たちのアイバンクも小さな成功に甘えることなく、努力いたしますので、今後もいっそうの尽力とご支援をお願いいたします。また、今日の集いの開催にあたり、ドナーのご家族やレシピエント、そのご家族を始め、演奏や朗読、司会者の皆様、また協賛しご寄付をいただいた企業、ライオンズクラブ、医療関係の皆様にも御礼を申し上げます」と述べました。

ドナーVoice③

私は緑内障の手術を受けました。しかし、術後に白内障と角膜の異常が見つかり、更に手術を重ねる事になりました。特に角膜の移植については、提供して下さる方がいるのか、手術はうまくいくのか、と不安がいっぱいでした。現在、私は夫と息子の三人家族ですが、二人には心身の障害があるため、私の視力の回復はどうしても必要な事でした。支え合いながらの平穏な暮らしが続けられる事を祈りながら待ちました。幸運にも視力を回復することができ、夢のようです。提供くださいましたご本人のご冥福を心からお祈り申し上げますと共に、力を与えていただいた目を大切に、幸せを見つけて生きていきたいと強く思っております。ありがとうございました。(福井県 70代女性)

ドナーVoice④

昨年12月に入院し、手術した翌朝には手のひらの皺や線がうっすら見えて感激いたしました。日を追うごとに見え方が増えてきて嬉しかったことを覚えております。10日あまりで退院し、病院を後にした私の目に飛び込んできた空の美しさは言葉にできません。その時の感動はいつでも、どこでも、思い出せる最高の宝物になっております。

(埼玉県 80代女性)

ドナーVoice①

妻を見送り一年半が過ぎましたが、未だに私の手を握りながら旅立った時の様子が目に浮かび忘れられません。毎朝、仏壇に向かい冥福を祈りつつ、「角膜提供で移植を受けられた方は喜んでおられるよ」と語りかけています。その後の経過が少し心配ですが、角膜提供を妻にさせたことが心の重荷になっていましたので、私もドナー登録をしました。これでいつ妻のところに行っても笑顔で会えることができると思い、楽になりました。今、角膜提供の大切さを知人、友人、サークルなどで語りかけています。(90代女性のご主人様より)